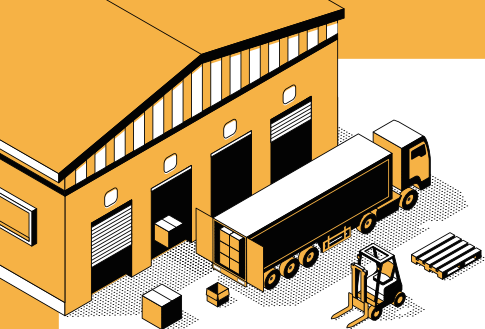




今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進により、物流現場改善は大きなテーマ。ただし、無計画に多額の投資を行ってもなかなか成果は得られません。ここでは、物流現場の課題である労働力不足を知恵と工夫、IT・DXの導入で乗り切っていく改善事例を紹介していきます。

知恵と工夫による事例

「毎日配送から隔日配送に切り替え」

課題

毎日同じルートで店舗配送を行っていたが、積載率が30～40%程度と低く、効率の悪さに悩んでいた。また、ドライバー不足により、配送スケジュールの維持が困難になりつつあった。

対策

荷主企業と相談の上、毎日行っていた配送を隔日配送に変更。配送ロットを増やし、少ないドライバーでも効率的に配送できる仕組みを整えた。

効果

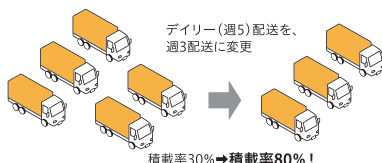
- ・積載率が80%に向上。
- ・ドライバーの勤務負担が軽減され、人材不足の問題を解消。

〈改善前〉

積載率が悪く、またトラックドライバー不足で配送スケジュールが組みづらかった。

〈対策・効果〉

毎日配送から隔日配送に切り替えたことで、積載率がアップ。余裕ができたドライバーを他のエリアの配送にも活用でき、会社全体の配送効率も向上。



ITを活用する事例

「RPA※の導入」 ※ロボティック・プロセス・オートメーション

課題

物流需要の増加に伴い、受注処理の件数が大幅に増加していた。しかし、人手不足の影響でこれらの作業が追いつかず、処理の遅れが発生。また、手作業による処理ミスも発生しやすくなり、誤配送や請求ミスなどのトラブルも心配されていた。

対策

RPAを導入し、受注作業を自動化した(RPAは、ソフトウェアロボットを活用して、人が行っていた定型業務を自動化する技術)。

効果

- ・繰り返し業務に対し、迅速かつ正確な処理が可能に。
- ・人的リソースを顧客対応や業務改善などの業務に活用できるようになり、全体的な業務効率向上を実現。

〈改善前〉

顧客からの注文データの入力、配送スケジュールの調整、請求書の発行などの受注業務が大幅に増え、また人材不足も重なり、処理の遅れや請求ミスも起こりかねない状況であった。

〈対策・効果〉

RPAを導入することで受注作業を自動化し、日中のみならず夜間の受発注処理も可能に。人材不足解消にも寄与。



鈴木 邦成 (すずき くにのり)

物流エコノミスト、日本大学特任教授(在庫・物流管理など担当)、博士(工学)(日本大学)。早稲田大学大学院修士課程修了。日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事。専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』(NTT出版)、『入門 物流(倉庫)作業の標準化』(日刊工業新聞社)。